

国際バカロレア(IB)について

- ・国際バカロレア機構が提供する国際的な教育プログラム。**課題論文、批判的思考の探究等の特色的なカリキュラム、双方向・協働型授業**により、**グローバル化に対応した素養・能力を育成**。世界140以上の国・地域、5,119校で実施(平成30年4月現在)。
- ・高校レベルのディプロマ・プログラム(DP)は、**国際的に通用する大学入学資格(IB資格)**が取得可能であり、世界の大学入学者選抜で広く活用。また、幼稚園、小学校、中学校レベルのプライマリー・イヤーズ・プログラム(PYP)、ミドル・イヤーズ・プログラム(MYP)を含め、我が国の**グローバル人材育成**等に資する。
- ・我が国において**更なるIBの普及を進めるためには、導入・運営に対する効果的な支援が必要**。

国際バカロレア認定校等を2020年度までに200校以上

未来投資戦略2018(平成30年6月閣議決定)

※平成30年4月現在(計126校)

PYP:認定校27校 候補校等20校 MYP:認定校16校 候補校等11校

DP:認定校38校 候補校等14校

導入の意義

①変化する社会に対応するグローバル人材育成

- ✓ 幅広い知識の**探究スキル**、**課題発見・解決能力**、**コミュニケーション能力**等を育成
- ✓ 国際的な視野を持ち、AI等の技術革新、将来(Society 5.0)の社会課題に対応するグローバル人材を育成

②初等中等教育の質の向上

- ✓ IBと日本の教育政策の方向性は親和性が高い
- ✓ **「全人教育」を通じた主体的学び**を重視し、初等中等教育の好事例を形成

③国際的通用性

- ✓ IB資格を活用した国内外への進路の多様化
- ✓ **大学の国際化・活性化**

文部科学省の主な取組

○国内推進体制の整備 43百万円(27百万円)

国際バカロレアの普及に係る取組を関係者間で検討し、1条校等での国際バカロレアの導入・運営に対する効果的な支援を行う等の機能をもつ、持続的な普及促進体制の核となる枠組み(コンソーシアム)を構築。

平成31年度は、コンソーシアムを通じてIB教員養成を含む1条校等におけるIB導入・運営に係る支援を強化。

文部科学省B教育推進コンソーシアム関係者協議会(司令塔機能)

候補校・関心校等

・コンソーシアムを通じた**IB教員養成の促進**

認定校

・地域普及促進に係る日本人リーダーの育成

ICTプラットフォーム、シンポジウム(情報共有、認知・内容理解の促進)

○日本語DP 61百万円(61百万円)

DPの一部科目を、日本語でも実施可能とするプログラム。国際バカロレア機構との協力の下、日本語DP試験を実施。

日本語DPにより、日本人教員の活用機会を拡大することで、日本の学校によるIBの円滑な導入を促進。

(参考)制度的支援等

- ・DPと学習指導要領を無理なく履修するための教育課程の特例措置
- ・外国人に対する特別免許状の授与促進等
- ・大学入学者選抜におけるIBの活用促進